

令和7年7月23日(水)

災害対策室

第2回「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」策定検討委員会

1 開会

2 議題

- (1) 「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」の骨子案について
- (2) 「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」の今後のスケジュールについて

3 閉会

第2回「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」策定検討委員会会議録（要約）

発言者	発言内容
スポーツ振興課長	1 開会 ただいまから第2回「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」策定検討委員会を開会いたします。 本日は「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」の骨子案について協議いただく予定ですが、お配りしている資料は今後区議会に付議していく資料でもあるため、取り扱いにご留意いただきますようお願いいたします。 それでは、会議に入ります。初めに本委員会委員長であります東洋大学齊藤教授に開会のご挨拶をいただきます。
齊藤委員長	暑い中お集まりいただき、ありがとうございます。会う人会う人に「暑いですね」という言葉が出てしまいます。明日辺りから北海道でも40度ということで、さすがに北海道で40度は今までないことです。どこに行っても暑さから逃げられないのでしょうか。このようになりますと、このスポーツビジョンの中にも暑さ対策のようなものが入ってこなければいけないのではないかと考えていました。 前は、計画の方向性やアンケートの結果の共有をさせていただきました。今回から、いわゆる骨子案ということで中身に入ってまいります。この後、3回目の会議では恐らくコンプリートさせる形になってくると思いますの

発言者	発言内容
スポーツ振興課長	で、今日はなるべく多くの意見をお出しいただければと考えております。ご協力よろしくお願いいたします。 ありがとうございます。それでは、委員の皆様におかれましては、それぞれの立場でぜひ自由なご意見をいただきたいと思います。これからの議事運営は齊藤委員長にお願いします。
齊藤委員長	2 議題 (1) 「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」の骨子案について 議題(1)策定方針及び構成案について、ジャパン総研、スポーツ振興課長よりご説明をお願いします。 骨子案を用いて説明をおこなった。
齊藤委員長	ありがとうございました。委員の皆さんからご意見、ご感想があればお願いします。
井上委員	今、私はウォーキングを仕事にしています。私は筑波大学や東大、神戸大学、立命館大学、早稲田大学の先生方とスポーツについていろいろな研究をしています。スポーツというのは概念なのです。野球という形になってから野球というスポーツになる。サッカーという形になってからサッカーというスポーツになる。従って、表題である「スポーツに親しむ板橋区」というときに板橋区民が一番親しみやすい、あるいはファシリティーがあるところで、どのようなスポーツが市民や区民に懐いていくのかがこれから課題かと思います。総花的にスポーツをやっていくという話ではなく、プライオリティーを決めるということです。区民あるいは中学校、小学校でどのような部活、スポーツがしたいのか、もう一度リサーチをしてきちっとデータを取って、区によって文化や土壌が違うということをお考えになっていただけたらと思います。 私は生意気にも今日の第3期基本計画で3つの視点を私なりに解釈してきました。今、私はスポーツ庁とも仕事をしており、スポーツ実施率を全国で広げようとしています。東京都も小池知事も頑張っているのに、まだ50%に到達していません。全国で一番スポーツ実施率が上がっているのが近くの埼玉県さいたま市で、70%以上です。さいたま市の清水市長とお話すると、埼玉は観光資源がないので、シビックプライド、地域愛をスポーツで醸成していくためにスポーツコミッションというのをつくっているとのこと。

発言者	発言内容
	私の出身校である早稲田大学の先生でもあった原田宗彦先生が言われており、内閣府でもスポーツによるまちづくり、地域づくり、あるいは住民のウェルビーイング、これから幸せなまちづくりをしていくことが大きなテーマになっています。今やその中でスポーツはエンジョイスportsから競技スポーツ、あるいは経済的なスポーツになってきているような気がします。今、スポーツにはドゥー・スポーツ（本人がやるスポーツ）とウォッチング・スポーツ（見て楽しむスポーツ）があり、後者にはツーリズムウォークも入ります。日本の観光庁でツーリズムウォークを利用してインバンド客を呼ぼうという会議を持ちましたが、結果的に我が国にサッカーやラグビーなどを見に来るわけがなく、野球もやっている国はアジアでも少ないのでなかなか来ないという結論になりました。そのようなことをいろいろ考えたときに、このスポーツが好きだからできなくても応援しよう、ボランティアで支えようというサポート・スポーツが3つ目のカテゴリになると思います。板橋のブランド戦略があると書いているので、板橋区の産業振興構想の中にも入っているようです。 私の立場で、スポーツ庁と話をしてウォーキングを健康スポーツとしてブランディングをしており、室伏さんともお話しして、健康スポーツ課をスポーツ庁の中につくっていただきました。運動とスポーツの差は何かというと、スポーツはすごく充実感、達成感、あるいは幸福感の濃度が高いが、そのかわり練習をしなければいけません。運動は比較的エンジョイ、生涯学習として楽しめます。それを坂本区長にお話しさせていただいたので、この席に呼ばれたのだらうと思っています。 私は健康プランによるところをお手伝いさせていただき、健康スポーツとしてどのようなカテゴリがあるかを示していければと思っています。今まではウォーキングは意味づけがなされていない価値がないものでした。自分の足で歩くのになぜイベントに対してお金を払うのか、関西に行ったら自分の足で歩いたら金をもらえるといわれるくらいのことでした。今は学術研究会をつくって、身体機能における二足歩行の機能を科学して、国土交通省がウォーカブルタウン構想（車から人へ）を持っています。今、日本橋京橋の開発は三井グループ、東京建物グループさんがおこなっていますが、ウォーカブルタウン構想に支持を得ています。私は板橋の健康プランに基づいて、働く女性の方々、お子さんを持つご婦人の方々が健康になる手助けしたいと思っています。私は皆さんのお体が資本だと思っており、健康資本を持っているから知能が働いて労働の対価を得られるので、身体資本をどのように資本化していくかを考えています。そういう意味で、手段としてのウォーキングではなく、目的としてのウォーキングとして価値を付けたいのです。私は、東

発言者	発言内容
齊藤委員長	京都で15年もウォーキングや都民の健康づくりをさせていただいていますが、最初は東京にオリンピックを持ってくるためには何かビッグイベントができないかということで、石原慎太郎知事に依頼されて、ベイブリッジを止めて、そこを歩き、それを空撮する「ウェルカム東京」というビデオプロモーションをやりました。今でも毎年5回、変わりゆく東京の地域を見ていこうということでやっています。私も板橋区を歩いたことがないので、うちのスタッフと歩いて、板橋の中山道の歴史などを感じたいと思っています。去年だったか、新潟日報と一緒に佐渡金山ウォークを京橋までやっていただいて、ここをスタートにさせていただいた記憶があります。 それから、大人のためのプログラムがありますが、子どものプログラムも大切です。今、わが国の政策の中で、将来を担う子どもたちをどうするのか、お子さんを育てる方をどうサポートするのかということがあり、大学の先生方と、わが国の少子化と未来を担う子どもたちの保育というのをつくりました。ペタゴジーと言って、動物はすぐ立たないと生存できませんが、人間は1年～1年半くらい時間を要することがあります。その時間にどのような気持ちよい家庭環境をつくるか大切で、不快感が一番間違っただ子どもたちをつくっていくのです。それから7～8歳くらいまでの間に筋肉ができていきますので、その間にどのような運動・エクササイズを需要です。そして12歳くらいまでの間に知力が急に発達していきます。段階的にお子さんの発達を支える、少子化問題の子育て世代を援助する、子どもが運動やスポーツに親しむようなプログラムができないだろうかと思い、今回、資料をお持ちしました。 私が申し上げたいことは、狭い範囲で板橋の健康プラン、板橋の子どもの未来応援宣言のようなことに対して、運動とスポーツの合いの子のような健康スポーツ・ウォーキングを浸透させていき、板橋に住んでよかった、これからは板橋に住み続けようというわが町を愛するシビックプライドをつくれなにかと思っています。いろいろな教室も催行していますし、これから多くの方々が楽しんで参加していただけるようなプログラムを作って、ステップアップをして、スポーツに昇華させていくというベーシックなところが私のミッションだと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。 ありがとうございました。今日は、意見交換はしませんので、感想や意見をいただいて、それは次の素案に生かしていただく形で進めていきたいと思っています。 次に安田委員、スポーツ協会の立場からご意見はありますか。

発言者	発言内容
安田委員	「2 アンケート結果から見る現状」のスポーツイベントについて、私どもはスポーツフェスティバルを開催して今年で第3回を迎えます。土日開催においても周知がなかなか難しく、非常に苦手な部分がございます。板橋区の28競技団体で取り組んでいる板橋区のスポーツに対して、皆さんに興味を持っていただき、好きなときに好きなだけできる環境を整備していくことをねらっております。60万人近い区民の方に周知して参加していただくということに取り組んでいるのですが、部会でもなかなかいいアイデアが出てこない現状です。 イベントの開催時期についても、ほかのイベントや学校の行事とぶつかっていたり、時期を見るのも難しいところがございます。なんとしても多くの人にスポーツに親しんでいただけるイベントにしたいと思っています。
齊藤委員長	スポーツフェスティバル的なものは集客がどこも大変だという話を聞きます。1つの例として手前みそになりますが、去年、おとしから実は東洋大学で地元の北区の協力などもいただきながら、『THE NORTH TOKYO DERBY』という試みをやっています。同じ北区にある東洋大学と東京成徳大学のバスケットボールチームのただの交流試合なのですが、これを興行的にしつらえて、スポーツビジネス的にからませるというイベントをやっています。今年の集客は1,800です。ただの練習試合ですが、スポーツビジネス的な考えを取り入れてプロモーションするとそれだけ集まるのです。その辺は研究も必要かと思います。 森委員、いかがですか。計画の中にもユニバーサルスポーツなどの文言がたくさん出てきていますが、パラの選手としての観点からご意見を頂ければと思います。
森委員	板橋区スポーツ大使をしています。実際にパラスポーツ競技者を今はしておりますが、その前までは板橋区出身でずっと河川敷で野球をしていました。板橋区のスポーツに小さい頃から慣れ親しんできましたし、今はユニバーサルスポーツをスポーツ大使という立場で推し進めていく役割を担っています。今の現役大学生のサークルなどで、パラスポーツの支援団体のようなものがあり、その方々がパラスポーツのサークルに入ろうと思ったきっかけが東京オリパラだったとのこと。彼らはその当時、中学生などの義務教育時代で、都内の学校でスポーツレガシーのような教育をしていたことにすごく影響を受けて、今もパラスポーツにポジティブな気持ちで関わってくださっているということを知って、私自身パラスポーツ競技者としてうれしくなりました。そういったことを踏まえると、義務教育時代から、義足や車椅

発言者	発言内容
	子など未知のパラスポーツの用具などに触れ合う中で、介助のことなども身についたりすると思うので、板橋区ならではの地域性にもからめた取組を今後は私自身もやっていきたいと思っています。私はイベントや学校の講演などでいろいろな所を訪れることが多いのですが、板橋区の学校で話す機会やオファーをいただくことが少なく、出身者としては寂しい気持ちになっています。 あとは板橋区民としては、せつかく河川敷沿いやグラウンドなどの場所があるので、このスポーツ施設ではこういう運動ができるなどの板橋におけるスポーツのプロモーションのマップを作ることで、板橋区だけでなく周辺の北区、埼玉、戸田にもいろいろなアクティビティーができる場所との連携などの可能性が広がるのではないかと思います。
齊藤委員長	事務局、いかがですか。骨子や素案の中に、子どもとパラスポーツやユニバーサルスポーツの出会い、井上委員からも子どもたちの歩く競技という話もありましたが、そういうものを盛り込める可能性はありますか。
スポーツ振興課長	具体的な施策はこれから検討していくので、盛り込めるところはどんどん盛り込んでいきたいと思っています。
齊藤委員長	小さい頃からの教育は重要ですね。今年はデフリンピックがありますけれども、足立区や北区はかなり子どもたちに対して機運醸成を、実際のデフリンピアンを呼んでやっています。そうすると子どもたちは興味を持ってそういったものを見ようとします。そういう教育が重要かと思っています。
森委員	合わせて、ちょうど東京都内はデフリンピック開催を前にしているので、ろうあ者の連盟などをお呼びしてデフリンピックについて説明するのですが、ろうあ者の方との接し方やデフリンピックのルールなどのそもそものところが、まだ我々パラ関係者でも理解が足りていないところもあります。スペシャルオリンピックスやデフリンピックも含めてユニバーサルスポーツとなると思うので、そういったところも一緒に入れていただければと思います。
井上委員	ウォーキングはユニバーサルを朝日新聞と一緒にやっているのです。
森委員	よく存じ上げています。

発言者	発言内容
井上委員	スポンサーをきちんと付けてロジックを出し、ボランティアの方々にもサポートしていただいて、江戸の歴史などを説明しながら、日比谷公園をスタートして、お堀をウォーキングすることを通して、一緒になって壁を取り除く作業をやらせていただいています。今、うちの大会で食品、お菓子メーカーなどを口説いて、歩く途中でSDGsに関するクイズなどを出して、親子で解いて、正解した人には会場でメーカーから表彰とお菓子を出していただくという工夫をしています。 中山道の板橋宿というのは、ここで皆さんが服装を整えて江戸城に参勤した所ですから、もっと地域の歴史や文化をしっかりと歩いて知らせる楽しみがあると思います。せっかくこれだけの方がお集まりなので、もっと自由にアイデアソースをみんなで出し合う場をつくってみてはいかがでしょうか。ご相談くださればネットワークがございますので、ご検討いただければと思います。
齊藤委員長	先ほどプロモーションというキーワードも出てきたのですが、そういう観点から阿部委員や山川委員の話も聞いてみたいと思います。阿部委員、ブランディングとスポーツには親和性が比較的あると思います。成功した事例などがもしあればお示しいただければと思います。
阿部委員	事例の紹介にはつながらないかもしれませんが、井上委員からスポーツを通じたシビックプライドの醸成ということがありました。ブランド戦略が大きく寄与しているところがあるので、それについてお話しさせていただきます。ブランド戦略の肝は、板橋区にほかにはない独自性が高い、差別化できるような取組があって、それをどのような対象にどのように発信・訴求していくかということです。今日の資料8、9ページで、区の体育施設、「かわまちづくり」、部活動改革という3つを挙げていただいています。見ていくと、一体的に整備した「あずさわスポーツフィールド」や「植村記念加賀スポーツセンター」の話、「かわまちづくり」、そして部活動改革の中には「eスポーツクラブ」、「ロボット数学クラブ」、「サイエンスクラブ」など、ほかにはない先進的な独自性の高い、差別化できる取組が埋もれています。こういう取組をしっかりとやりながら、統一感のある受け手に届くような積極的な情報発信、プロモーションをしっかりとやっていく必要があると感じています。 プロモーションの視点で、11 ページにもあるように、今後参加したいイベント、大会についての設問で、「スポーツ以外（文化やグルメなど）を楽しむイベント」という回答があったようですが、スポーツに少しでも興味関

発言者	発言内容
齊藤委員長	心がある方は既に取り組んでいる側面が多いのかなと思うので、全く興味がない層の人に訴えかけるには、スポーツ以外の分野に訴求しながらスポーツに打ち込んでいくという考え方が大事なのかなと思っています。 計画の趣旨からそれるかもしれませんが、板橋の区民スポーツ大会の案内を目にしたときに、「大会」という呼び方や、種目に「家庭婦人バレーボール」「家庭婦人卓球」など、今の時代にそぐわないようなネーミングが気になりました。魅力的な取組や地域資源が既にあるので、ネーミングを工夫するだけでも違ってくると思いました。 ネーミングは重要ですね。うちの大学で健康スポーツ課を Health と Sports をかけて「HELSP0」と呼び、HELSP0 アリーナという大きいアリーナを持っています。そのアリーナを使って、北区民を集めて2つのゼミで『レク de HELSP0』というイベントをやり、1,000人集めました。昭和のにおけるネーミングはどうかと思います。 山川委員はいろいろな企業やステークホルダーと関わるが多いと思います。これからのスポーツはスポーツ関係者だけでなく、先ほど井上委員からもお菓子の会社を巻き込んだという話がありましたが、企業をうまく巻き込むような戦略やヒントはありませんか。
山川委員	私は産業戦略担当課長としていろいろな企業をよく訪問させていただきますが、どのような人と関わる場合でも、相手にとっても自分たちにとってもメリットになるところで交渉することが一番ポイントだと思います。ただ、企業は今、昔に比べて地域に貢献したい、社会に自分たちの技術や製品を還元していきたいという意識をこの5年、10年くらいですごく持ってきているので、企業にお願いするハードルが昔ほど高くなってきていると思っています。どちらかという企業を巻き込みたいという私たちが気持ちとしてハードルをまず乗り越えられるかというところと、企業にとってもメリットがあるということをいかに示せるかが重要だと思います。 私たちがやっている事業を紹介すると、スポーツの業界に限ったわけではないのですが、板橋区はものづくりの企業が多く、すごくニッチなところを攻めた企業や、タニタさんなど世界に知られた企業があります。タニタは計測器やヘルスチェックをやっているの、今もマラソンなどで協賛していただいていると思いますが、いろいろな部分でも連携していけると思っています。ほかの企業さんにも、区の内部も外部もうまくお声掛けいただきながら、お互いにとって Win-Win な関係で、価値を社会に創出する動きをもっと回

発言者	発言内容
齊藤委員長	していけたらと思いますし、社会としてもより良いステージでのスポーツ振興、産業振興がかなっていくと思っています。 今までどうしてもスポーツ行政と体協などで回してしまっていたというがあるので、民間のいろいろな力をお借りすることは必要だと思います。先ほどただのバスケットの交流試合に 1,800 人動員したと言いましたが、実は城北信用金庫がプロモーションビデオなど作ってくれました。そういう絡みができるといいということでしょうか。
井上委員	私たちもスポンサーがいないとやっていけません。新しいCSRで企業がSDGs、ウェルビーイングをテーマにしているので、企業にインセンティブとしてPRが入るようにすれば、集まると思います。今時、費用対効果ばかりいつている企業は成長しません。その辺のところを私も広告会社を運営してきましたので、共通軸があると思います。地域でやっているとどうしてもエリアプロモーションになってしまいましたが、結果的にエリアプロモーションの集まりがナショナルカンパニーになっていつているので、サントリーやコカコーラなどもかなり子どもたちに対して積極的です。そういうことを考えると、もっと面白いことができるのではないのでしょうか。
齊藤委員長	恐らく、特にこのような地域では、地域の子どものスポーツ振興は行政ではなく、民間企業の力にかかってくると思います。中学校の部活の地域移行なども、結局は原資が必要で、どこが出すかと考えるとそういったところになると思います。 今度は折原委員に伺いたいのですが、地域振興ということで企業以外のいろいろなステークホルダーがいらっしゃると思いますが、そういう観点から巻き込むべき人間や関わる人間についてご意見をください。
折原委員	私は地域振興課長という名前のおり、地域をいろいろな切り口で盛り上げる仕事をしています。今回の計画のテーマにもあるスポーツは重要な要素です。自分がしている仕事には大体 200 以上の町会、自治会があり、これから秋を迎えてスポーツのイベントが増えていきますので、人的、財政的な部分を含めてサポートをしています。今回、いろいろな検討結果を整理していて、16 ページに「スポーツの実施率向上」という課題があります。「仕事や家事・育児が忙しくて時間がない」とありますが、共働きが浸透してきて、ご自身の生活にとられる時間が増えてきてスポーツに回らないというのがあると思います。地域振興という部分でも町会・自治会活動に自分の時間を

発言者	発言内容
齊藤委員長	割くのが難しい現状があり、持っている課題が似ている気がします。スポーツの場合、時間が取れない中でもすき間時間をどううまく使って体を動かすかということが解決の方法にもなると思いますので、いろいろな主体と連携をして、すき間時間を有効活用しながら体を動かす機会をつくっていくことが新しい時代に必要なスポーツ推進なのかなと思います。 すき間時間という話がありましたが、過去5年から現在までは働く世代、特に女性のスポーツ実施率はあまり上がっていません。ただチョコザップに女性が行くようになり、そういうものまでもスポーツという概念に入ってきたので、この5～10年は伸びる可能性があると思います。 河島委員はみどりと公園課長ということで、広場、公園で少し体を動かすこともスポーツという概念が、公園にとって大事なリソースになってくると思います。そういう観点から、骨子や計画に盛り込んだほうがいい視点についてお願いします。
河島委員	公園は板橋区内に約 350 あります。緑道や小さな遊び場も含めると 400 近くあるのです。公園には様々な設備があって、そのうちの1つに健康器具というのがあります。例えば背伸ばしベンチや腹筋ベンチ、あん馬ベンチなど、座る機能だけでなくちょっとした運動ができる高齢者でも使いやすいものや、上腕を回転させるものなど 12 種類くらいが、43 公園に設置されています。そういったものを活用していただくことが、身近なところで体を動かすという意味でのスポーツというつながりかと思います。この情報は区のホームページに出ていますので、どの公園にどの設備があるか見ていただければ分かります。 23 区に共通して、今はどこの公園もボール遊びができないという問題があります。板橋区の公園では、軟球でのキャッチボールやサッカーボールのパスなどができる、ほかの利用者に危険が及ばないように金網で囲ったボール遊び広場を 16 カ所ほど設置しています。区内でボール遊びができる場所も、所管していない施設も含め、場所と時間帯を昨年度末にホームページで公開しています。阿部委員からもありましたが、実はいい資源があるのにみんなが知らないという問題がありますので、ホームページの公開だけでなく、もっと積極的にプロモーションをおこなっていきたいと考えています。それが人々が公園に行ってみよう、運動してみようという意識につながればと思います。 区内には特色のある公園もたくさんあり、例えば、赤塚植物園は 23 区唯一の屋外型植物園です。食育も含め、農は板橋の特長の一つでもありますので、

発言者	発言内容
	最近、農業園という農業について学んだり、体験できるスペースを設けています。あとはこども動物園が東板橋公園にあり、草屋根にヤギを乗せて草を食む姿を見せるイベントもおこなっています。高島平の徳丸ヶ原公園にもこども動物園があります。このようなものを活用するために、それらを回るマップやコース作りもおこない、体を動かすスポーツの中でもウォーキングに関わる形でうまく使っていただければと思います。 今年度も小学生をメインとした子どもたちに水を楽しんでもらうための施設で、地域の方によって運営されているこどもの池が16カ所ほど稼働しています。昭和40年代後半に整備したもので、施設も老朽化しており、社会情勢的にも使われ方が変化してきていますので、噴水がメインの施設に改築していく取組をしています。まだ昨年1カ所、高島平7丁目公園に整備して、今年度7月から稼働していますが、先日、区民の発達障害のお子さんをお持ちのお母様から、今までこどもの池は利用できなかったが、噴水施設になることで制限なく自由に簡単に使えるようになったという感謝の言葉をいただきました。噴水施設は委員長がおっしゃった夏場の暑さ対策にも非常に有効と考えています。お金もかかりますし、時間もかかるので、なかなかすぐに増やすことはできませんが、少しずつ進めていこうとしています。
齊藤委員長	行政はいろいろといいリソースを持っているのだけれども、上手に市民に届けるのが下手というところがあります。
河島委員	我々もそう思っています。
齊藤委員長	私は中核市に住んでいますが、LINEに入ると、私の年代には要らない子育ての情報はじめ、関係ない情報まで来るので、結果的に見なくなってしまいます。うまくアルゴリズム化することが必要と思い、自治体に提言したらそうになりましたので、また見るようになりました。今はSNSの時代ですから、そういう工夫をしたほうがいいと思います。 久保田委員の話を聞きたいのですが、中学校の部活の地域移行についてはいかがですか。
久保田委員	9ページにも紹介していただけていますが、部活動改革ということで、板橋区の教育委員会では「女子サッカークラブ」、「eスポーツクラブ」、「ロボット数学クラブ」、「サイエンスクラブ」、今ちょうどホットな「野球クラブ」を進めているところです。自分自身が着任した4月と同時に「野球クラブ」は始まりましたが、いろいろ課題はあると感じております。部活の地

発言者	発言内容
齊藤委員長 太田委員	域移行を、私たちは地域展開と考えていますが、今後、部活動の地域展開をしていく中で、地域の方や保護者の理解を進めていきたいと思っています。そもそも、国に言われたというより、板橋だけで考えてもおおよそ部が 300 ある中で半数以上がスポーツ部ですので、ここ数年で先生の異動によって廃部や、生徒さんがなかなか入らないという状況になっています。どうしても自分の世代などは部活イコール顧問の先生イコール担任の先生というような形だったのですが、先生に何もかも負わせていくのはやはり無理ですので、安定して継続性のあるものにするために、私どもが進めている地域クラブがどうしても必要になっているのだと思っています。 活動を見ていると、中学生は柔軟ですから、指導者が誰であれ楽しんでいます。ただ、やはり意識を変えていかなければいけないのは、学校側や私たち教育委員会事務局スタッフ、保護者の方だと考えています。今日、スポーツの経営の視点から、ビジネスという言葉も出ましたが、その観点がとても大事で、そこは外せないところなのかなと思っています。長い目で見て、いくらかければ子どもたちに安定して支援できるかという試算はとても難しいのですが、それは教育委員会がやっていくしかないのかなと思っています。その最初の一步が野球であり、前回の検討会でも「まずは野球を始めましたよね」というご意見をいただきましたので、今後発展させていきたいと考えています。この場でもいろいろ気づくことがありますので、引き続きよろしくお願いします。 やはりピンチはチャンスという表現になるのでしょうか。部活の地域展開、地域移行がうまくいかないと 20 年後の板橋のスポーツは惨憺たるものになります。ここをしっかりと考えながらやっていかないとはいけません。そういう意味では、この章が骨子に入ったというのは大変意味があったと思います。大体の行政の最近作っている計画を見ますと、実はここは逃げているところがあります。なぜかというと、行政内で縄張りみたいなものがあり、スポーツ振興課と教育委員会には壁があって、隣のセクションのことを書けないというスタンスをとっています。最初は板橋でもそれを感じましたが、よく書いてくれたなと思っています。 次に健康推進課長である太田委員お願いします。ヘルスとスポーツはかなり親和があるけれども実は壁があって、それぞれ同じようなことをやっていると思うのですが、この計画に書けるようなことがありますか。 今日の議論もそうですし、このビジョンの中でも、やはりウォーキング、健康という言葉がかなりちりばめられています。今、委員長がおっしゃったと

発言者	発言内容
	おり、健康とスポーツ、ウォーキングは親和性が非常に高いと思っています。現在、私ども健康推進課でも健康プランを作っており、その中でウォーキングは大切な視点の1つだと考えているので、運動という言葉とともにウォーキングという言葉も出していきたいと思っています。 先ほど、公園課長からも公園での健康器具の話もありましたし、井上委員からもウォーキングの関係で健康スポーツということでもかなりつながりがあるという言葉もありました。組織ごとの壁という言葉も委員長からありましたが、できれば組織横断的に公園課、スポーツ振興課と協働しながら、例えばウォーキングマップのようなものを作っていければと思ったところです。
齊藤委員長	最後に副委員長から感想をいただきますが、その前に平岩委員からご意見をお願いします。
平岩委員	今日は夜遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。私はどちらかというとこれを作る立場ですので、今さら言うなということもあろうかと思えます。実は今皆さんに作っていただいているのはビジョンということで、区役所にはもう一つ計画という考え方があります。目標を定めて達成するのが行政の計画であり、ビジョンはどちらかというと夢を語るような、仮に実現しなくても板橋区はこのような目標を定めてこれに向かってやっていくというものですので、そのようなものを作りたいと思っています。 実は板橋区は特定のスポーツに特化することができます。例えば、フェンシングで森委員と同じスポーツ大使の江村さんや上野さん、加納さんというオリンピックでメダルを取るような世界的なアスリートがいます。また女子レスリングの方にもスポーツ大使をやっていただいています。特に子どもたちのレスリング全国大会を毎年板橋区で実施しており、今週末、代々木体育館である全国大会では、どういうわけか板橋区長が毎年来賓で呼ばれるので、レスリング界では板橋区はとても重要視されている地域になっているようです。例えば板橋区の中から将来的にフェンシングやレスリングのメダリストが生まれるとすごく夢があると思っていますので、そのあたりもどこかに入れられればいいなと思っています。
齊藤委員長	最後に副委員長からご感想をお願いします。
櫛田副委員長	実は私は大学時代は山岳部に入っており、その後専門出版社におりましたので、60年間ずっと歩き続けてきました。そういう経験から区長に呼ばれたのではないと言われております。そういった意味で、先ほどからキーワー

発言者	発言内容
齊藤委員長	ドとしてウォーキングがたくさん出てきていますが、具体的に私が提案できるのは、いわゆる競技スポーツを別としたウォーキングも含めた広い意味でのスポーツのジャンルかと思っております。基本構想の中で具体的なことを言っているのかどうか分かりませんが、可能性があるのはイギリスなどで定着しているフットパスになります。イングランドとウェールズを合わせて約22.5万kmのフットパス（歩く道）があり、イギリス全体で合計すると地球を6周するくらいの歩く道が、都市部も含めて網目のように整備されています。彼らは非常に気軽に、サンドイッチと紅茶を持って2、3時間歩くのが日常的になっています。私事ですが娘がイギリス人と結婚しているもので、現地を実際に歩いてみました。イギリスではright of wayという歩く権利が保証されており、牧場もゴルフ場も個人の家の裏庭も決まっているルートなら歩けます。そのかわり持主は戸締まりや整備をしないとイケませんが、非常に定着していて、健康だけでなく、国の財政にもつながっています。例えば、イギリスのランブラーズ協会がまとめたデータによると、毎週30分以上3km以上歩いている人がどれくらいいるかということ調べた結果、イングランドでは人口の22%、スコットランドでは33%、ウェールズでは同じく3割くらいがよく歩いているとのこと。経済効果として日本円に換算するとイングランドで約8,000億円、スコットランドで約3,600億円、ウェールズで約715億円、総額約1兆2,315億円というとんでもない経済効果を招いているということです。 これは国の場合ですけれども、一番大事なことはコースを設定など具体的なことをすることなので、板橋区でもただ呼びかけるだけではなくて、ウォーキングのコースを設定していただきたいです。先ほどマップを作ることをおっしゃっていましたが、鳥取県が既に平井知事がウォーキング立県というのを宣言して、19の町の中で歩こうという事業をやっており、みんなが使える代表的なフットパスのルートマップを作っています。板橋区でも、先ほどから皆さんがおっしゃっているような自然、歴史、文化などいろいろな素材がたくさんあると思いますので、そういうものをつなぎながらぜひ具体的なウォーキングに対するプロモーションをやっていったらいいのではないかと思います。 骨子案に関して様々のご意見をいただきました。これをなるべく素案に生かしていただくよう事務局にまとめていただきたいと思います。 最後に18ページの基本理念の説明はよく理解できるのですが、「誰もが身近にスポーツに親しめるまち 板橋」、これはいわゆるキャッチコピーですよ。

発言者	発言内容
井上委員	ブランド化するということだと思います。
齊藤委員長	これは市民に定着するのでしょうか。どこの町でも使えるような内容ですので、もし時間的な余裕があるのであれば、少し工夫していただいてもいいと思います。
スポーツ振興課長	既に伺っているのですが、素案の時には提案します。
井上委員	横瀬町の例があるのですが、9,800 人の人口で、町長が「日本一歩きたくなる町」というスローガンを掲げました。最初は私も秩父の山の中でそんな歩きたいところがあるのかと半信半疑で行きましたが、今、副委員長がおっしゃった英国のフットパスのスタイルでした。板橋区も歩くだけでなく、健康スポーツとしてウォーキングをやる場合、競技としてブランディングしていく場合のコンセプトチュアルなストラテジーを作る必要があります。私も行政とやっていると、この場では融和的でも、事業が始まると課同士の縄張りや予算のことでめめることが多いので、役所自体が変わらないと日本の創世は成りません。せっきく委員会に内部の方がたくさんいらっしゃるの、融和していただいて、板橋区らしさをネーミングしていただきたいです。 国土交通省の運輸局が中山道と東海道と日光街道を「江戸街道」としようと言っています。区内には中山道をはじめとした多くの素材がありますが、区民の皆さんや役所の皆さんだからこそ知らないことがたくさんあります。いつもこのような委員会で 2035 年まで誰がリーダーシップとマネジメントをするのか考えますが、役所の習慣のために 2 年くらいで皆さん変わってしまうので、結局雲散霧消になってしまいます。また区長が変われば瓦解してしまうので、それでは区民がかわいそうです。皆さんは区民の税金で働いているのだから、もう少しそこを考えていただいて、もっと求心力を持った委員会を作っていただきたいです。またもう一度ワークショップのような形をとって、話し合わないといけないと思います。区民ファーストで考え、板橋区民のシビックプライドをどのように醸成するかをもっと頑張って考えていただきたいです。 （２）「板橋区スポーツ推進ビジョン 2035」の今後のスケジュールについて 議題（２）についてご説明をお願いします。

発言者	発言内容
齊藤委員長	説明をおこった。 ありがとうございました。何か質問はございますか。 -質問・意見等なし-
齊藤委員長	全体を通して何かありますか。 -質問・意見等なし- 6 閉会 その他、事務局から何かありますか。 次回は9月2日18時からとなりますので、引き続きよろしくお願いいたします。 これにて第2回策定検討委員会を終了します。ご協力ありがとうございました。